

## 平成21年度愛知県生活習慣病対策協議会各専門部会報告

	糖尿病対策部会	がん対策部会
開催日	平成22年 2月 5日(金)	平成22年2月12日(金)
議題	<p>(1) 平成21年度糖尿病・メタボリックシンドローム対策事業について</p> <p>ア 学童期生活習慣病対策事業について</p> <p>イ 大学生へのメタボリックシンドローム予防事業について</p> <p>ウ 糖尿病指導者養成事業の実施について</p> <p>(2) 愛知県地域保健医療計画(糖尿病予防・対策)見直しの考え方について</p> <p>(3) 平成22年度糖尿病・メタボリックシンドローム対策事業(案)について</p>	<p>1 愛知県がん対策推進計画アクションプランについて</p> <p>2 愛知県がん対策推進計画の進捗状況について</p> <p>3 平成21年度各がん検診精度管理委員会開催結果について</p> <p>4 がん登録事業について</p>
部会の検討状況 (意見等) (箇条書き)	<p><b>【平成21年度糖尿病・メタボリックシンドローム対策事業について】</b></p> <p>糖尿病対策事業として展開する3つの区分(「知識普及啓発」「指導者育成」「環境整備)」のうち「知識普及啓発」で実施した事業(学童期生活習慣病対策事業・大学生へのメタボリックシンドローム予防事業)についての報告を行った。</p> <p>⇒現状を知ることは重要であり、その結果を踏まえどのように社会・地域へ展開していけるかが課題</p> <p>「指導者養成事業」として、教職員を対象に小児期糖尿病の研修を(財)愛知県健康づくり振興事業団に委託し行った。</p> <p>⇒参加者からは、「糖尿病の正しい知識を得る機会を得た」や「疾患をもった生徒の気持ちが理解できた」など教職員に1型糖尿病の生徒を通じて2型への予防意識を高める機会となった。</p> <p><b>【愛知県地域保健医療計画(糖尿病予防・対策)見直しの考え方について】</b></p> <p>平成23年3月見直しの愛知県地域保健医療計画(糖尿病)について、検討事項を整理した。</p> <p>⇒可能な限り現状が分かるような数値を示すとともに対策についても具体的な数値目標などを記載することが大切ではないかなどの意見があった。</p> <p><b>【平成22年度糖尿病・メタボリックシンドローム対策事業(案)について】</b></p> <p>平成22年度事業について、概要案を示した。</p> <p>⇒予算が厳しい中での事業実施であり、効果的な事業展開を実施する必要がある。</p>	<p><b>【愛知県がん対策推進計画アクションプランについて】</b></p> <p>○ ヒトパピローマウィルスワクチンが認可され、ワクチンによる子宮頸がんの予防効果は明確であるので、何らかの取り組みをアクションプランに盛り込むべきではないか。</p> <p>○ 計画の全体目標である、年齢調整罹患率を10年で10%減らす目標は、達成するのが厳しいのではないか。</p> <p><b>【愛知県がん対策推進計画の進捗状況について】</b></p> <p>○ 病理医が減りつつあるなか、拠点病院への複数配置をすすめることにより、拠点病院ではない病院への病理医の配置が難しくなるのではないかと懸念される。</p> <p>○ がん検診受診率の向上の啓発に関して、様々な取り組みをしているが、どのような効果をあげたかというところの検証をされたい。</p> <p><b>【平成21年度各がん検診精度管理委員会開催結果について】</b></p> <p>○ 市町村ごとの受診率を見ると、上位と下位の市町村の差が歴然としている。特に上位の市町村について、なぜ受診率が高いかを実地に検証し、結果を下位の市町村に提供してはどうか。</p> <p>○ 市町村におけるがん検診だけでなく、職域における検診などを含む実数を集約する仕組みを考えていく必要がある。</p> <p><b>【がん登録事業について】</b></p> <p>○ がん登録の実施体制が再整備され、登録精度の向上など、その効果が現れることが期待される。</p> <p>○ 以前、がんを診断しているはずの病院からの届出がないと指摘されていたが、徐々に改善はされているように思われるが、病院ごとのDCNを把握することにより、更に改善ができるのではないか。</p>
今後の方向性 (箇条書き)	<p>○ <b>若年層の生活習慣特性を踏まえた効果的な啓発活動の実施</b></p> <p>大学生をターゲットにしたメタボリックシンドローム予防を経年にわたり実施してきた。</p> <p>調査の分析結果を踏まえ、平成22年度は効果的な啓発により疾病予防の意識を高めるようにする。</p> <p>○ <b>保健医療関係機関の連携の推進</b></p> <p>平成18年度に糖尿病予備群やその患者に対し保健医療関係機関が実施している教育や相談、診療などの内容を記載した「糖尿病対策地域連携ガイドブック」を作成し、連携を推進してきた。</p> <p>平成22年度には内容を含め協議し改正に向けた調査を実施し、連携のための情報を整備する。</p>	<p>○ ヒトパピローマウィルスワクチンに関しては国においても今後の取扱を検討中であるため、22年度にプランの見直しを予定しているので、県が実施主体としてできることを検討していきたい。</p> <p>○ がん検診啓発の効果の検証については、今年度の啓発の一部については、アンケート調査などを予定しているが、結果を捕捉できる部分については検証するよう努める。</p> <p>○ がん検診受診率の実態については、市町村以外のがん検診の受診状況についての調査を検討するなどして、県全体の受診率の把握に努める。</p> <p>○ がん登録について、大規模医療機関の登録状況を把握し、更に登録勧奨するため、がんセンター研究所 がん情報研究室と具体的な対策について検討していく。</p>

	循環器疾患対策部会	歯科保健対策部会
開催日	平成22年1月15日(金)	平成22年1月25日(月)
議題	(1) 循環器疾患登録事業について (2) 特定健康診査・特定保健指導の実施状況について (3) 特定健診データを利用した循環器疾患集計・分析等について	1 「フッ化物洗口実践集 一学校現場の取組みと工夫&事業評価一」(案)について 2 健康日本21あいち計画「歯の健康」の第1期最終評価と第2期策定に向けて 3 歯周病対策の推進について
部会の検討状況 (意見等) (箇条書き)	<p>○ 前部会において、これまで実施してきた循環器疾患登録事業に代え、特定健診の結果を利用した把握方法を検討していくこと、及び詳細な部分の検討については部会長と事務局に一任することが了解された。</p> <p>今部会では、具体的に特定健診受診時に受診者が記入する問診票から得られる、脳卒中及び心臓病についての「既往歴あり」又は「既往歴なし」と記載した受診者の方達を各々集団に分け、その生活習慣等について集計・分析する手法を説明した。</p> <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既往歴ありの方をA群、既往歴なしの方をB群、既往歴なしからありに変わった方をC群に分類するが、既往歴ありからなしに変わった方のD群も記載すること。</li> <li>・ くも膜下出血・脳出血・脳梗塞は原因が違うので、脳卒中という一括りにして集計・分析等をすると、保健指導に使えるものになるのか。また、心臓疾患に関しても、心臓病という一括りにすると、動脈硬化性以外の疾患も含まれてしまうため、同様である。</li> <li>・ 問診票は、空欄の場合もあるし、高齢者の方も対象であり、確実に信用できるのか。</li> <li>・ 将来的にでも、レセプトとの突合による発症確認ができれば信頼性は高まると思われる。</li> <li>・ この手法は、届出登録事業では不可能であった、発生率を把握できるものである。まず、全体の発生率が把握できた後に、各病型別の発生率が分かるように、その手法も含めて検討されたい。</li> <li>・ 何年か置きに、脳卒中なら、3種類の病型の構成割合がどれくらいであるか等を調べるというような、サンプル調査をすれば、推移を知る上ではよいと思われる。</li> </ul>	<p><b>【フッ化物洗口実践集(案)について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事業評価として愛知県へのデータが入ることは意義が大きい。フッ化物洗口は、長期間継続しないと効果は出ないため、中学校まで継続できるとよい。</li> <li>○ 学校現場では、養護教諭が中心になって進めているので、全小中学校の保健室に随時あれば活用できる。</li> <li>○ フッ化物洗口を推進していくため、学校歯科医を始め、関係者全てが理解する必要があり、できるだけ広く配布されるとよい。</li> </ul> <p><b>【健康日本21あいち計画「歯の健康」の第1期最終評価と第2期策定に向けて】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 最終評価では、歯周病だけでなく、肥満や糖尿病の指標は達成できていない項目が多い。</li> <li>○ 第2期策定における歯周病対策は、目標値を下げて地道に展開していくことになると思う。</li> </ul> <p><b>【歯周病対策の推進について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「歯の健康づくり得点」の40歳未満では「歯肉から血が出る」が多く、男女差はほとんどない。若い世代は、法的に乏しいため、学校保健と連携して進める必要がある。</li> <li>○ 学校保健においても、生活習慣病の予防は重点課題となっている。</li> <li>○ 全国的に歯周病が増えている。その理由は、今まで抜歯してきた状態の歯が歯周病として残っているからではないか。</li> <li>○ 歯周病と糖尿病の医療連携では、普及啓発が進み、向こう10年間くらいかけて改善していく感触が得られている。</li> <li>○ 糖尿病健康手帳の活用を進めるにあたり、歯科医による記入方法は統一した方がよい。</li> </ul>
今後の方向性 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来年度については現在の登録事業に代え、事務局説明の特定健診データを利用した循環器疾患集計・分析等を代替手法として行っていくこととするが、今部会でいただいた意見を踏まえながら、改善可能な部分から改善を行い進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「フッ化物洗口実践集」を活用し、関係者の理解を得られるように働きかけ、フッ化物洗口を引き続き推進していく。</li> <li>○ 健康日本21あいち計画において、指標の達成見込みがない歯周病対策について、来年度の新規事業として、“喫煙と歯周病”“歯の健康づくり得点”に関する啓発リーフレットを作成し、若年層への啓発を図る。</li> <li>○ 歯周病と糖尿病の医療連携について、モデル事業の拡大、糖尿病健康手帳の活用、普及啓発など、引き続き推進していく。</li> </ul>

地域・職域連携推進部会

開催日

平成22年1月28日(木)

議題  
\*番号等

- 報告  
 (1) 地域・職域連携推進部会専門会議の開催結果  
 (2) 平成21年度 特定健康診査・特定保健指導普及啓発強化月間の実績 資料11参照  
 議題  
 (1) 2次医療圏における地域・職域連携推進事業について  
 (2) 特定健康診査・特定保健指導の実施結果について  
 (3) 特定健康診査・特定保健指導情報データを活用した分析・評価(案)

部会の検討  
状況  
(意見等)  
\*箇条書き

- 議題  
 (1) 2次医療圏における地域・職域連携推進事業について  
 ○事業内容は、「特定健診・特定保健指導」「メンタルヘルス問題」「たばこ対策」「地域と職域との共催事業」等が多い。  
 ○衣浦東部保健所では、中小規模事業所の経営者等に健康づくりに関する調査を実施。その結果、従業員9人以下では、事業所として健康保険に加入する率や健康診断の実施率が低く、健康管理は個人的な問題として捉えているところが多いと判明。  
 (2) 平成20年度特定健康診査・特定保健指導の実施結果について (市町村国保分)

資料12参照

	特定健康診査		特定保健指導	
	受診数	%	終了数	%
愛知県	403,554	33.8	5,493	9.2
全国	6,942,839	30.8	156,101	14.8

※平成21年9月時点の速報値

- (3) 特定健康診査・特定保健指導情報データを活用した分析・評価(案)  
 ○現在、民間企業・県衛生研究所とタイアップし「特定健康診査・特定保健指導データベース」を作成中である。  
 ○継続的なデータの蓄積により、有所見者・メタボリックシンドローム該当者・危険保有者等の前向きコホート調査が可能。  
 ○特定保健指導の効果について評価が可能。  
 ○各市町村・医療保険者等に評価・分析して還元することにより、その集団に見合った健康づくり施策を推進することが可能。

今後の  
方向性  
\*箇条書き

- 特定健康診査・特定保健指導普及啓発強化月間の強化。  
 ○特定健康診査・特定保健指導に関する研修会の充実。  
 (「実技・応用編」をあいち健康プラザで新規開催、「計画・評価編」に民間企業従事者も受講可能予定。)  
 ○特定健康診査・特定保健指導情報データの分析・評価を本格化。(衛生研究所を中心)  
 ○2次医療圏における地域・職域連携推進協議会の有効活用。  
 ○関係機関との連携強化。(3師会、医療保険者・市町村・保健所・国民健康保険団体連合会・民間事業所、あいち健康プラザ等)